
**2014年3月期 決算 及び
2015年3月期 業績見通し
説明資料**

帝人株式会社

2014年5月9日

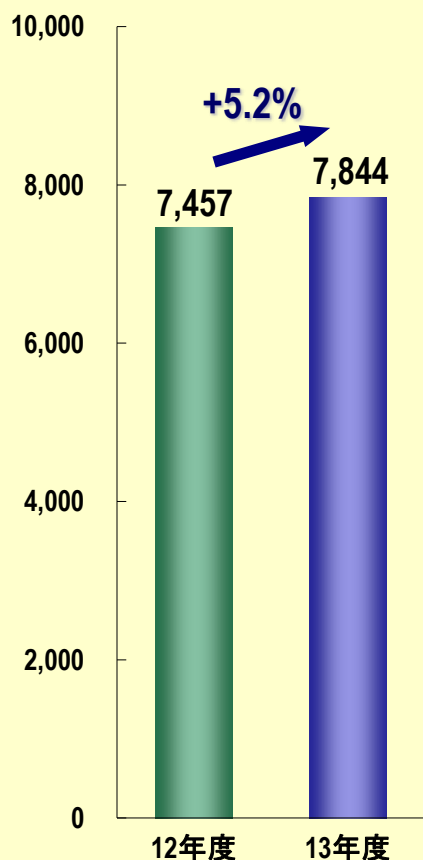
2014年3月期 決算概況

(1) 2014年3月期 決算概況

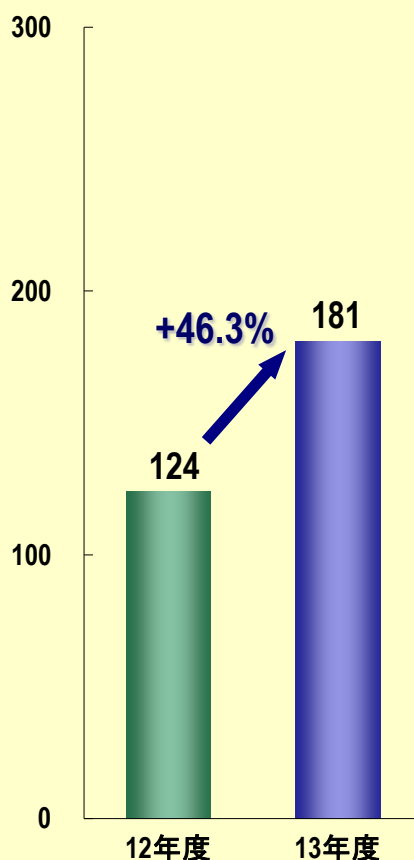
(億円)

年度累計

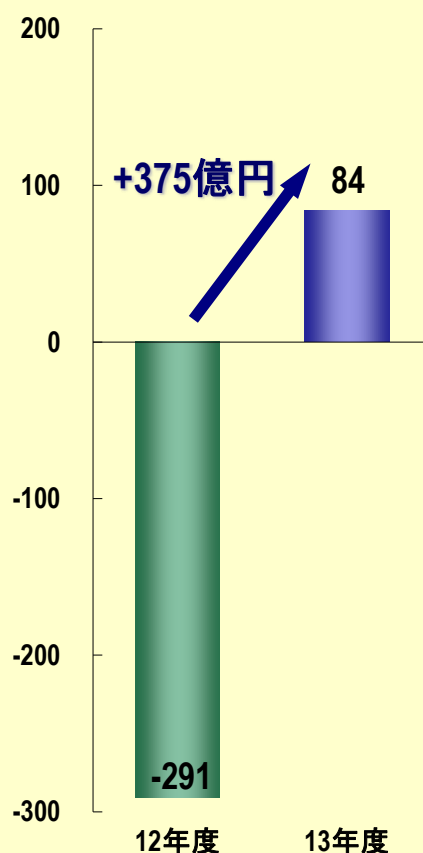
売上高



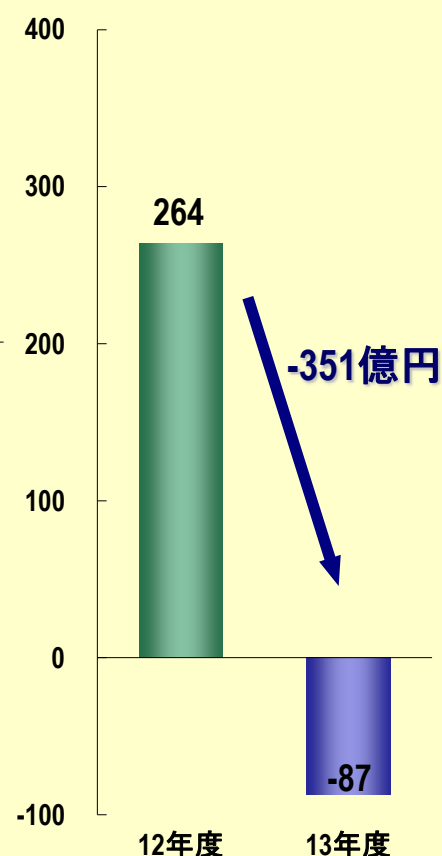
営業利益



当期純利益



FCF

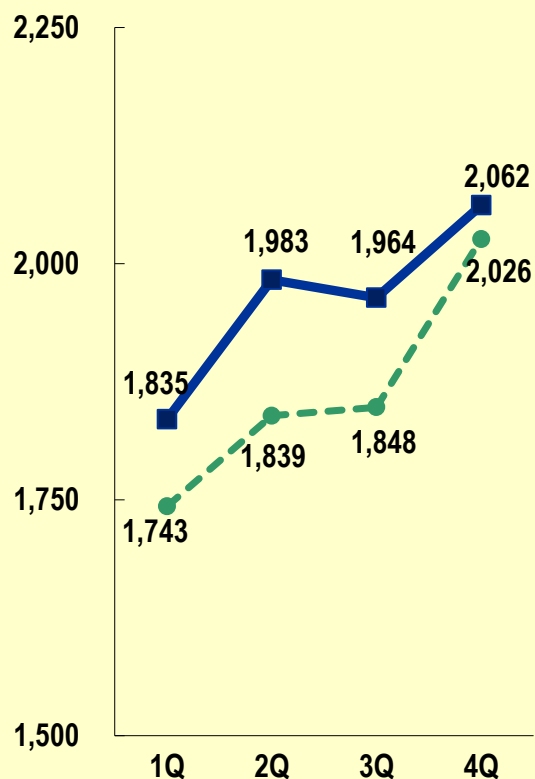


(億円)

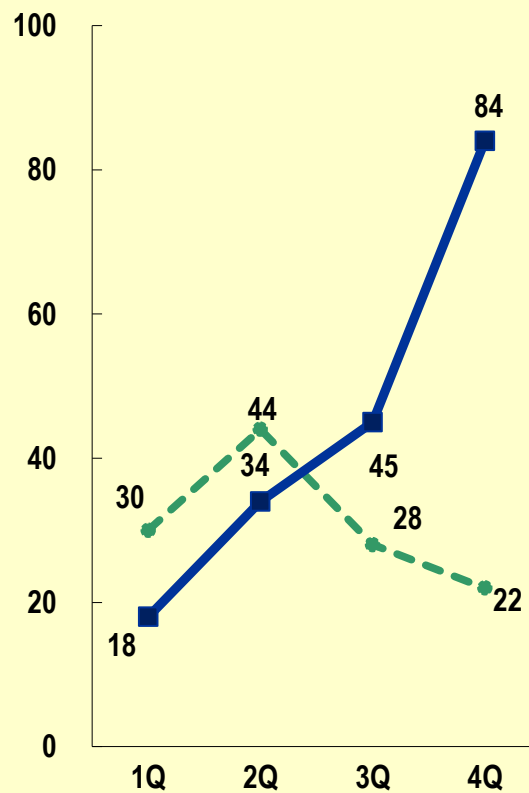
四半期推移

● 12年度 ■ 13年度

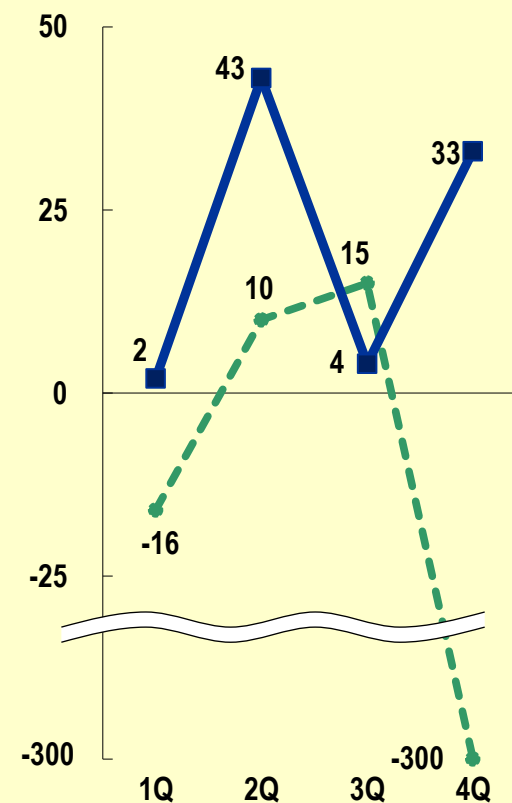
売上高



営業利益



四半期純利益



◆ 経営成績

(億円)

	12年度	13年度	差異
売上高	7,457	7,844	+387
営業利益	124	181	+57
<営業利益率>	1.7%	2.3%	+0.6%
営業外損益	-26	18	+44
経常利益	98	199	+101
特別損益	-319	-54	+265
税金等調整前 当期純利益	-221	145	+366
法人税等	61	79	+18
少数株主損益	9	-17	-27
当期純利益	-291	84	+375
EPS(円)	-29.61	8.50	+38.11

EBITDA *1	592	637	+45
設備投資 *2	363	302	-61
減価償却費	469	457	-12
研究開発費	332	322	-10
FCF	264	-87	-351

➤ 売上高、営業利益 増収・増益

- ・ 電子材料・化成品は業績低迷も、
高機能繊維・複合材料は復調

➤ 経常利益 倍増

- ・ 持分法による投資利益 増

➤ 当期純利益 大幅増益

- ・ 投資有価証券売却益 計上
- ・ 特別損失大幅減少(減損損失等)

PL換算レート

	12年平均	13年平均
円/米ドル	83	100
円/ユーロ	107	134
米ドル/ユーロ	1.29	1.34

*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出 *2: 設備投資には無形固定資産を含む

◆ 営業外損益

(億円)	12年度	13年度	差異
受取利息	5	5	-0
受取配当金	8	10	+1
持分法による投資利益	6	42	+36
デリバティブ評価益	26	15	-11
雑収入	11	14	+3
営業外収益 計	56	85	+29
支払利息	34	34	-0
為替差損	6	3	-3
寄付金	10	10	+0
雑損失	32	20	-11
営業外費用 計	82	67	-14
営業外損益 計	-26	18	+44

- ・ 持分法による投資利益 42億円
欧州関連会社の税効果見直し

◆ 特別損益

(億円)	12年度	13年度	差異
固定資産売却益	14	2	-13
投資有価証券売却益	0	83	+83
退職給付制度改定益	4	—	-4
その他	5	7	+2
特別利益 計	24	91	+68
固定資産除売却損	15	17	+2
投資有価証券評価損	8	1	-7
減損損失	294	88	-206
構造改善費用	1	24	+23
その他	25	16	-9
特別損失 計	343	145	-197
特別損益 計	-319	-54	+265

- ・ 減損損失 88億円
樹脂シンガポール工場2系列休止
フィルム茨城事業所休止
パラキシレン生産中止 等

◆ 財政状態

(億円)	13年3月末	14年3月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,624	7,684	+60	+239
自己資本	2,713	2,817	+104	+95
有利子負債	2,708	2,815	+108	+109

BS換算レート

	13年 3月末	14年 3月末
円／米ドル	94	103
円／ユーロ	121	142
米ドル／ユーロ	1.28	1.38

D/Eレシオ	1.00	1.00	+0.00
自己資本比率	35.6%	36.7%	+1.1%

◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動 他	現金及び 現金同等物 増減
13年度	386	-473	-87	-70	-157
12年度	643	-379	264	-110	154

➤ 財政状態

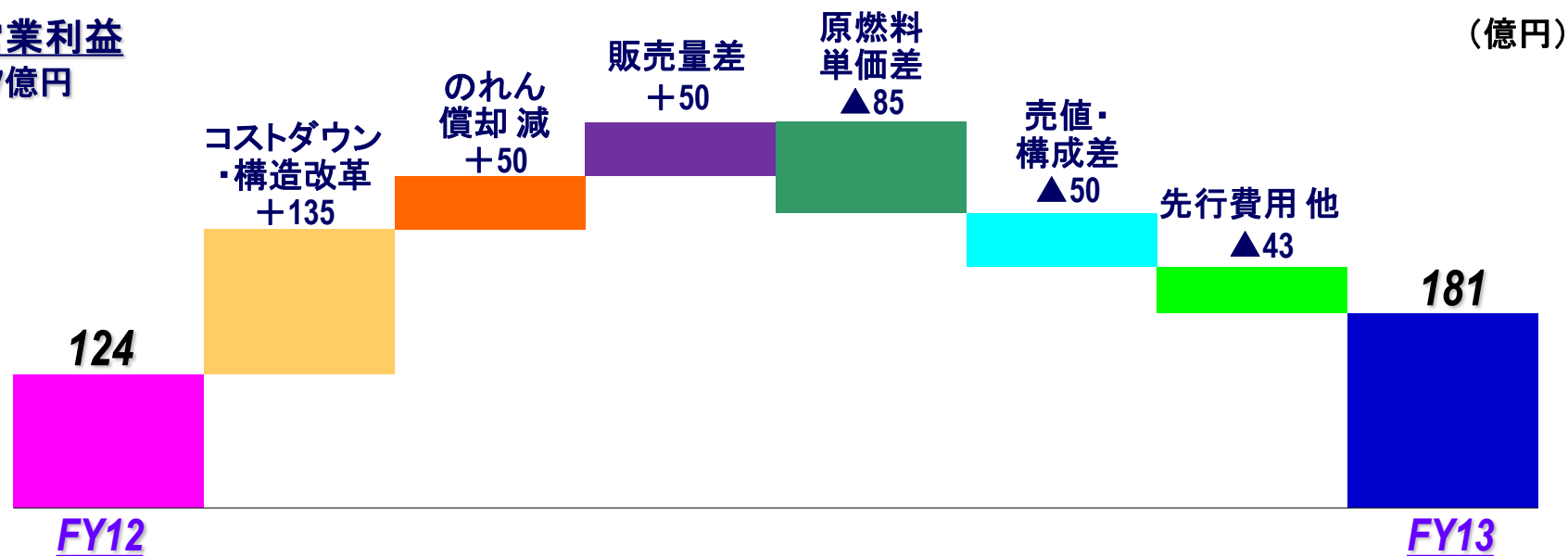
- ・ 資産・負債・自己資本とも円安により増加
- ・ 自己資本比率は若干改善

➤ キャッシュフロー

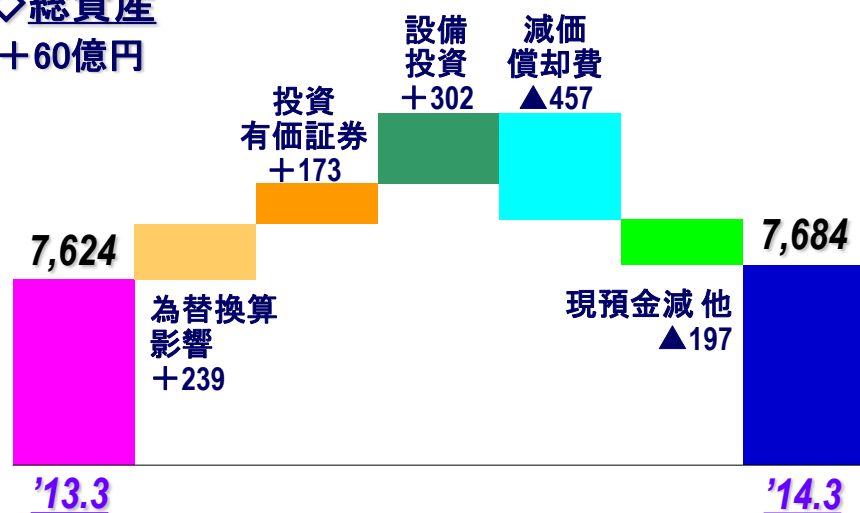
- ・ [前期] タイ洪水保険金入金
- ・ [当期] キョーリンHD 株式取得

◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

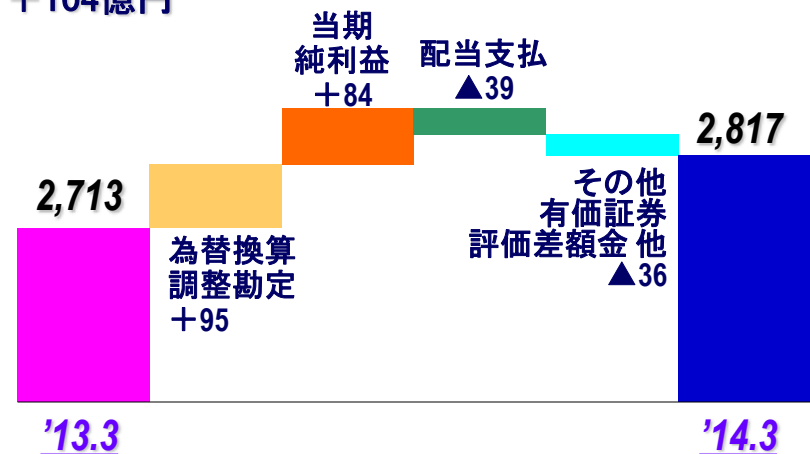
◇ 営業利益
+57億円



◇ 総資産
+60億円



◇ 自己資本
+104億円



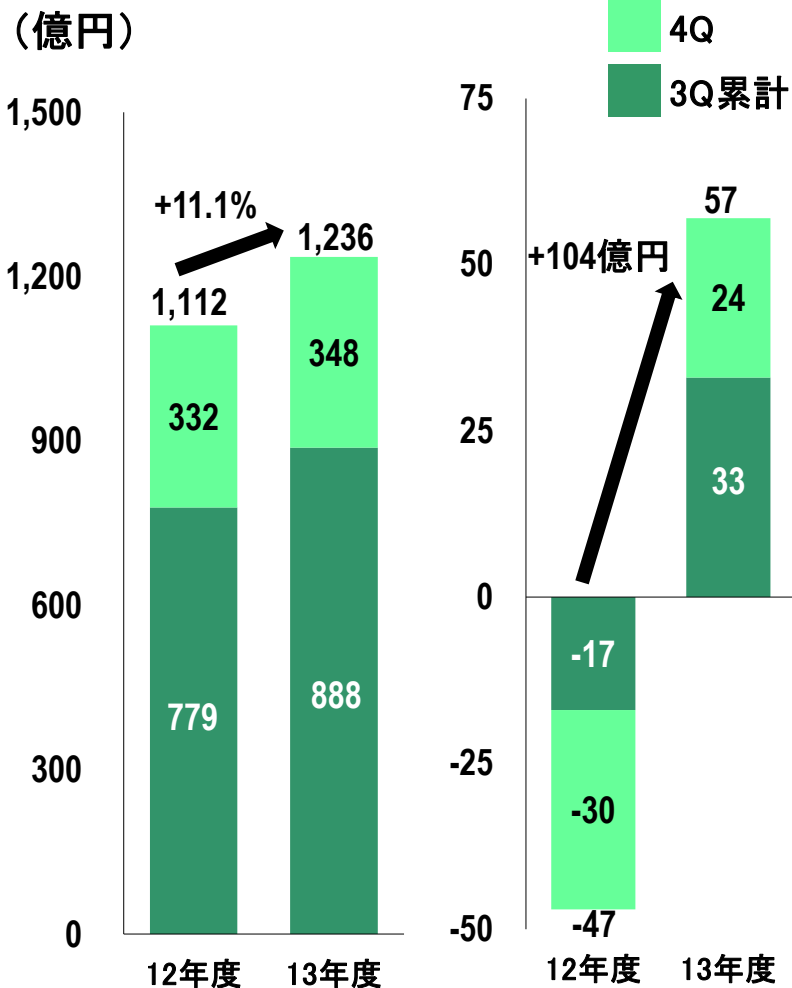
(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	12年度	13年度	差異	増減率	12年度	13年度	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	1,112	1,236	+124	+11.1%	-47	57	+104	—
電子材料・化成品	1,755	1,794	+39	+2.2%	-19	-72	-53	—
ヘルスケア	1,383	1,384	+1	+0.1%	248	245	-3	-1.1%
製品	2,372	2,542	+170	+7.2%	47	52	+5	+10.0%
計	6,622	6,956	+334	+5.0%	229	282	+53	+23.3%
その他	835	888	+53	+6.4%	42	17	-25	-58.9%
消去又は全社	—	—	—	—	-148	-119	+29	—
合計	7,457	7,844	+387	+5.2%	124	181	+57	+46.3%

① 高機能繊維・複合材料事業

売上高

営業利益



(億円)	12年度	13年度	差異	増減率
売上高	1,112	1,236	+124	+11.1%
営業利益	-47	57	+104	-

◆事業概況

◇高機能繊維:

パラアラミド繊維:

- 自動車・インフラ関連用途が堅調に推移
- 防弾・防護用途は需要低迷が継続
- 価格競争が激化

メタアラミド繊維:

- 産業資材用途等の販売は堅調に推移も、フィルター用途で競合激化
- 新規メタアラミド繊維の事業化を決定

ポリエステル繊維:

- 自動車関連の販売堅調

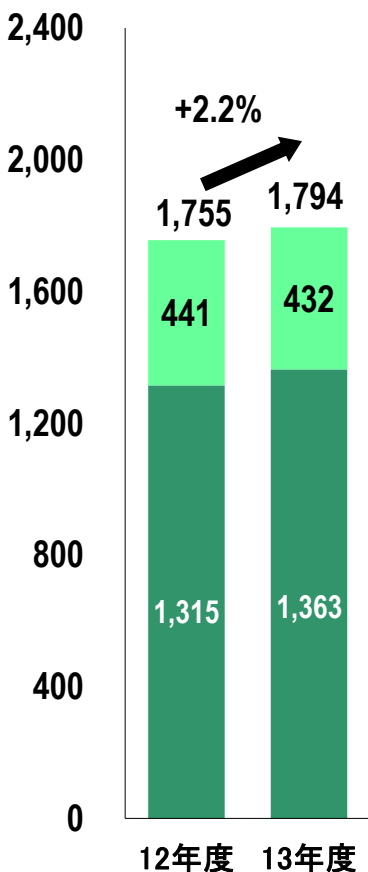
◇炭素繊維・複合材料:

- 航空機用途・圧力容器用途は堅調推移
- 製品価格は回復基調だが、海外後発メーカーによる販売攻勢
- 熱可塑性CFRPプロジェクトは着実に推進

② 電子材料・化成品事業

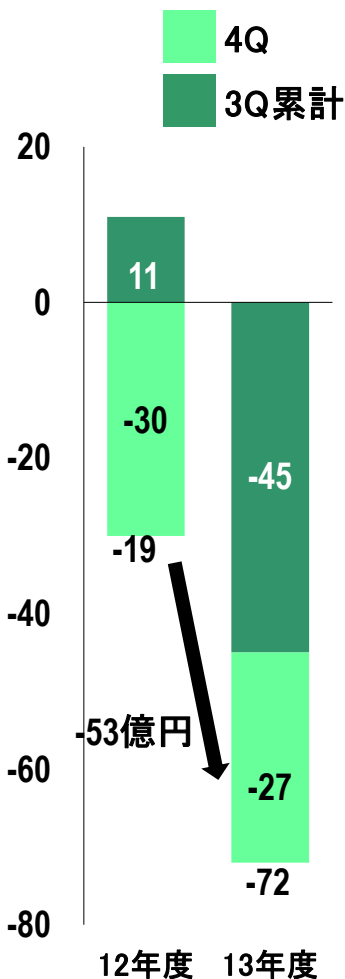
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



(億円)	12年度	13年度	差異	増減率
売上高	1,755	1,794	+39	+2.2%
営業利益	-19	-72	-53	-

◆事業概況

◇樹脂:

PC樹脂:

- ・ 需給軟調に加え競合各社の在庫調整により価格競争が激化、柔軟な価格対応で販売量を確保
- ・ シンガポール拠点の一部系列を休止

特殊PC、樹脂加工品:

- ・ カメラレンズ用途好調
- ・ グレージング部材の新規採用(NY市タクシー)

◇フィルム:

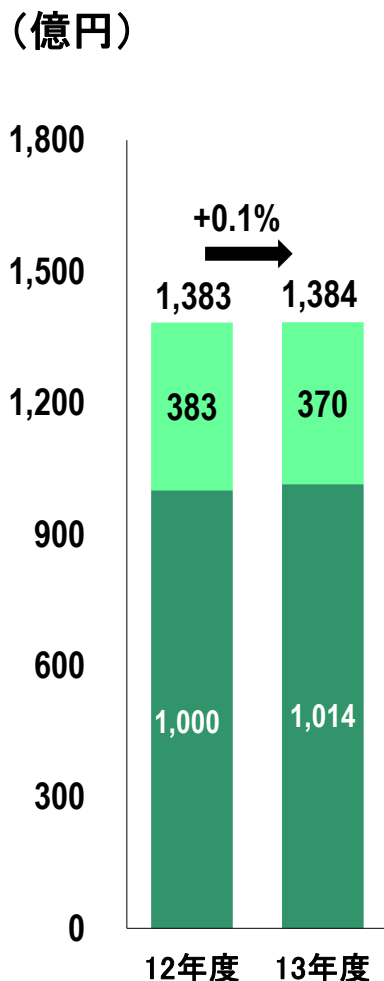
国内:

- ・ 工業用離型フィルム好調
- ・ 液晶TV向けは価格低下圧力もあり苦戦
- ・ 茨城事業所を休止、生産効率化に注力

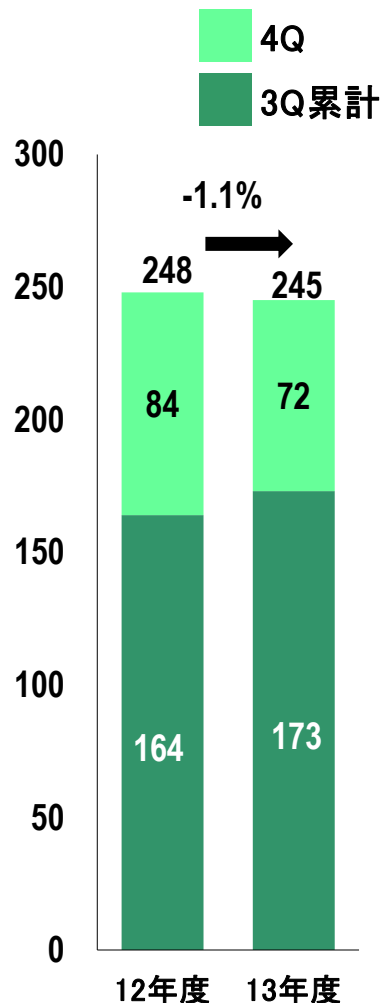
海外: 中国・欧州は堅調も、米国では需要減速

③ ヘルスケア事業

売上高



営業利益



(億円)	12年度	13年度	差異	増減率
売上高	1,383	1,384	+1	+0.1%
営業利益	248	245	-3	-1.1%

◆ 事業概況

◇ 医薬品:

- 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブキソスタット」
国内売上は着実に伸長、トップシェア確立
海外でも37ヶ国で販売、順調に拡大中
- 骨粗鬆症治療剤「ボナロン*」
競争激化による厳しい事業環境は継続
新剤形の拡販でカバーし、更なる浸透を図る

◇ 在宅医療:

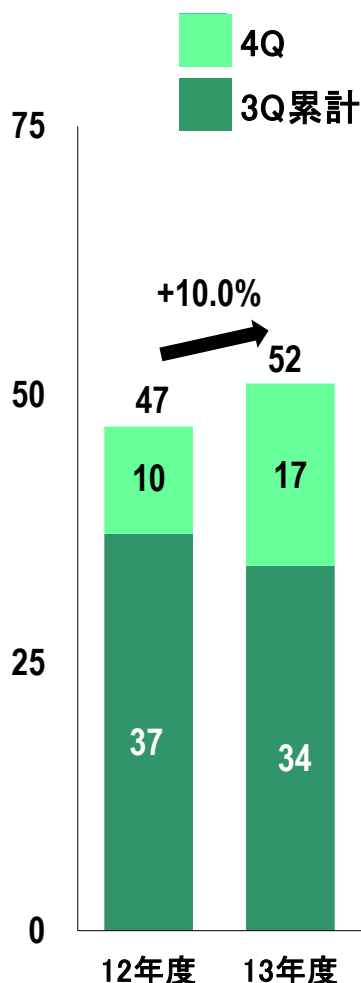
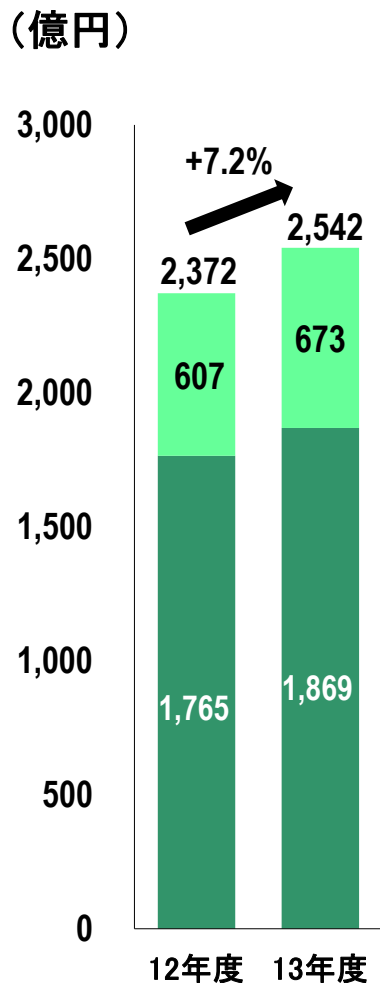
- HOT: 新機種投入、レンタル台数を維持
- CPAP: 携帯電話網の活用によるモニタリングシステム「ネムリンク」の効果もあり、レンタル台数は着実に伸長
- 米国では厳しい事業環境が継続
営業所の統廃合・人員削減等の施策を実行

* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

④ 製品事業

売上高

営業利益



(億円)	12年度	13年度	差異	増減率
売上高	2,372	2,542	+170	+7.2%
営業利益	47	52	+5	+10.0%

◆ 事業概況

繊維素材:

- ・ 欧米向けファッション・スポーツ用途好調
顧客との機能素材開発に加え、アセアンでの生地供給体制の拡充により、販売を拡大

衣料繊維:

- ・ 製品OEM事業は出荷増も、円安に伴うコスト増により収益面では苦戦

産業資材:

- ・ 自動車関連素材・部材向けの販売がグローバルで拡大
- ・ 震災復興需要が一段落、インテリア関連・化成
品分野も市況低迷が継続

◆セグメント別 売上高・営業利益推移(前回見通し対比)

(億円)		前回見通し*			13年度実績			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	584	716	1,300	584	652	1,236	-64
	電子材料・化成品	913	887	1,800	913	881	1,794	-6
	ヘルスケア	648	802	1,450	648	736	1,384	-66
	製品	1,209	1,341	2,550	1,209	1,333	2,542	-8
	計	3,355	3,745	7,100	3,355	3,601	6,956	-144
	その他	463	437	900	463	425	888	-12
合計		3,818	4,182	8,000	3,818	4,026	7,844	-156
営業利益	高機能繊維・複合材料	24	31	55	24	34	57	+2
	電子材料・化成品	-27	-23	-50	-27	-45	-72	-22
	ヘルスケア	94	156	250	94	152	245	-5
	製品	23	32	55	23	28	52	-3
	計	114	196	310	114	168	282	-28
	その他	-3	28	25	-3	21	17	-8
	消去又は全社	-59	-76	-135	-59	-60	-119	+16
合計		52	148	200	52	129	181	-19

*前回見通しは2013年11月1日に公表

2015年3月期 通期業績見通し

(1) 環境認識

グローバル経済：新興国の景気停滞を、復調してきた先進国景気が下支えする構図が継続

【GDP成長率】

IMFデータ(2014年4月公表)

(%)	2011	2012	2013	2014予想	2015予想
グローバル	3.9	3.2	3.0	3.6	3.9
先進国	1.7	1.4	1.3	2.2	2.3
新興国	6.2	5.0	4.7	4.9	5.3

【関連産業の動向】

自動車	<ul style="list-style-type: none"> ・米国は伸び鈍化も引き続き拡大、欧州も緩やかに回復の傾向 ・中国・アセアン等のアジア・新興国で伸長
航空機	<ul style="list-style-type: none"> ・エアバス／ボーイング受注好調、生産レートアップ ・アジアを中心とした新興地域のエアライン、LCCの需要も引き続き旺盛
エレクトロニクス	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン・タブレットの成長に依存した産業構造が継続 ・薄型テレビ／パソコンのマーケット成熟化 ・商品ライフサイクル短期化による低価格化トレンドの継続
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> ・薬価改定、ジェネリック促進加速、新薬創出加算の継続 ・在宅医療・介護の政策的拡大

(2) 通期業績見通しの概況

(億円)	13年度 実績	14年度 見通し	差異	
			金額	%
売上高	7,844	7,800	-44	-0.6%
営業利益	181	250	+69	+38.3%
<営業利益率>	2.3%	3.2%	-	+0.9%
経常利益	199	225	+26	+13.1%
当期純利益	84	100	+16	+19.7%

EBITDA *1	637	700	+63
設備投資*2	302	370	+68
減価償却費	457	450	-7
研究開発費	322	340	+18
FCF	-87	-100	-13

2013年度実績及び2014年度配当予想

(円/株)	13年度 実績	14年度 見通し	差異
中間配当	2.0	2.0	-
期末配当	2.0	2.0	-
年間配当	4.0	4.0	-

(億円)	14年 3月末	15年 3月末	差異
総資産	7,684	8,000	+316
有利子負債	2,815	2,900	+85

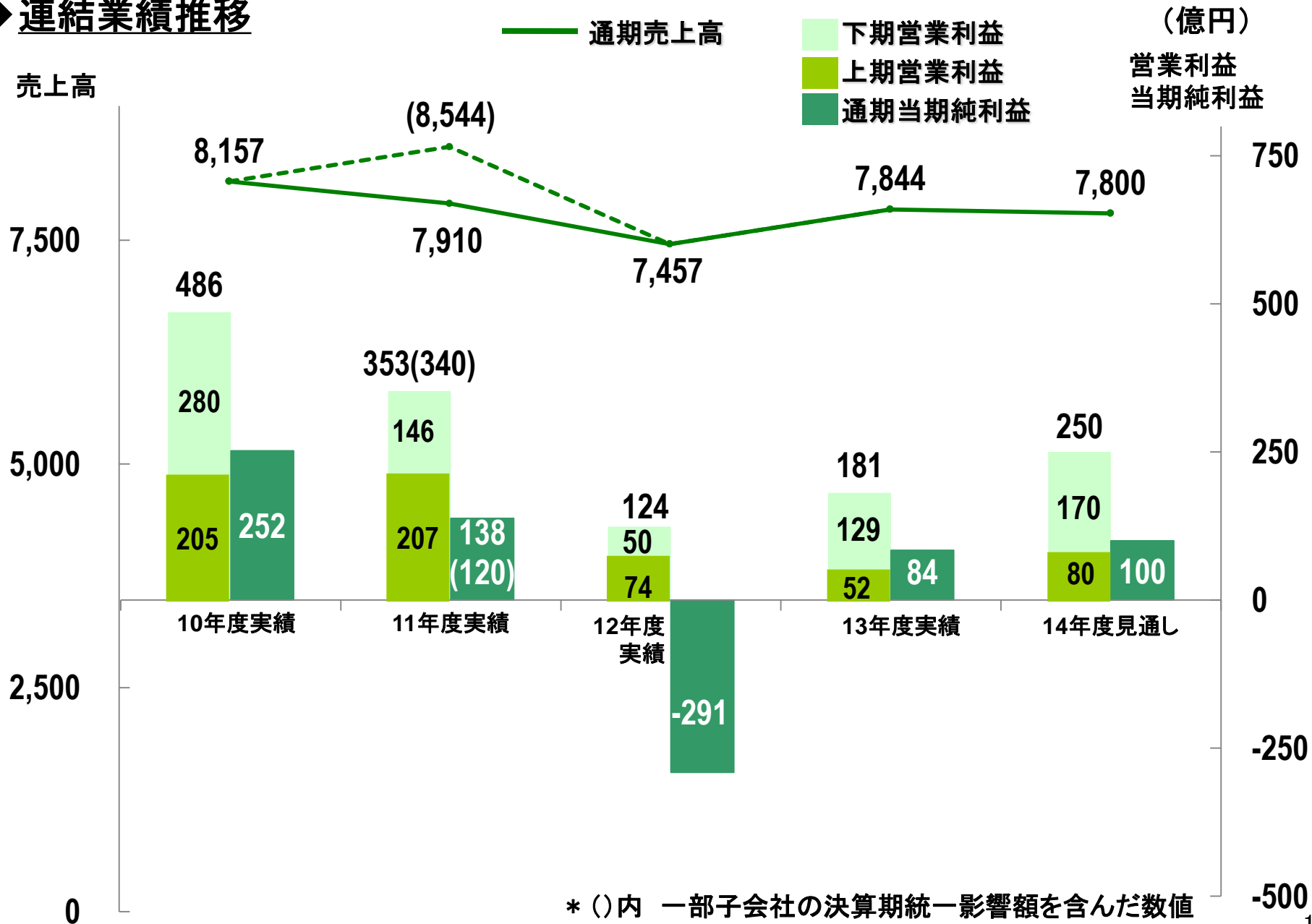
*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出

*2: 設備投資には無形固定資産を含む

■2014年度見通し前提

通期為替レート	米ドル = 100円	原油価格(Dubai) = 105米ドル/バレル
	ユーロ = 135円	

◆ 連結業績推移



◆セグメント別 売上高・営業利益推移

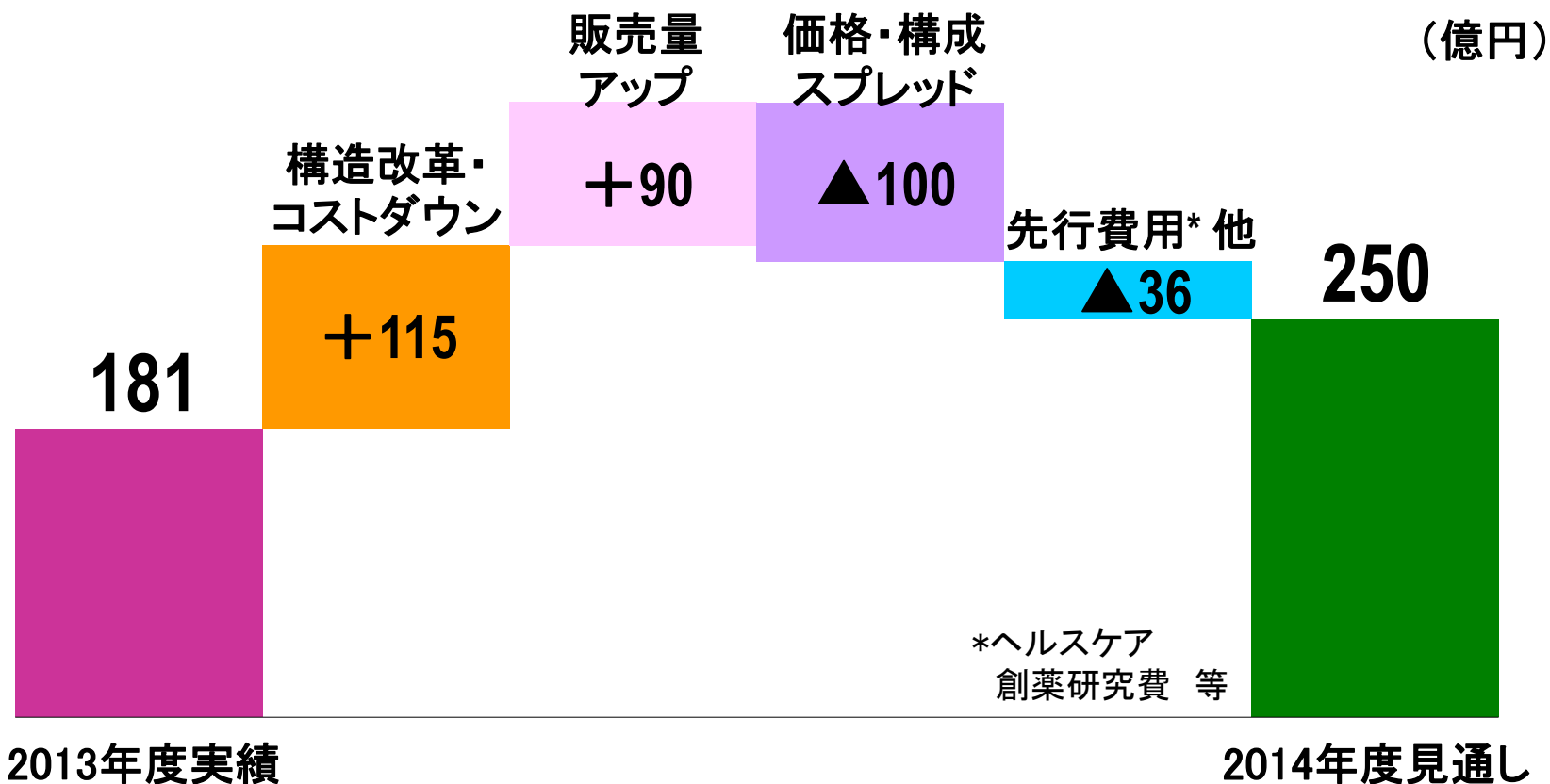
(億円)		13年度実績			14年度見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	584	652	1,236	650	650	1,300	+64
	電子材料・化成品	913	881	1,794	900	900	1,800	+6
	ヘルスケア	648	736	1,384	650	750	1,400	+16
	製品	1,209	1,333	2,542	1,250	1,400	2,650	+108
	計	3,355	3,601	6,956	3,450	3,700	7,150	+194
	その他	463	425	888	300	350	650	-238
	合計	3,818	4,026	7,844	3,750	4,050	7,800	-44
営業利益	高機能繊維・複合材料	24	34	57	30	35	65	+8
	電子材料・化成品	-27	-45	-72	-20	-10	-30	+42
	ヘルスケア	94	152	245	110	140	250	+5
	製品	23	28	52	20	35	55	+3
	計	114	168	282	140	200	340	+58
	その他	-3	21	17	0	30	30	+13
	消去又は全社	-59	-60	-119	-60	-60	-120	-1
合計	52	129	181	80	170	250	+69	

(3) 主要事業のアクション

事業		重点市場・製品／サービス	構造改革・コストダウン
複合材料 高機能繊維・	高機能繊維	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイヤ・ゴム資材用途の拡販 ・ 防弾・防護用途での拡販及びサプライチェーン構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造・本社固定費の圧縮 ・ タイへの2次移管完遂（ポリエステル繊維）
	炭素繊維 ・ 複合材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高収益用途(航空機)・高参入障壁用途(圧力容器)の重点拡大 ・ 自動車向け熱可塑性CFRPの開発加速 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日・欧 2極生産体制での生産効率アップ
電子材料 化成品	樹脂	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高機能コンパウンド・加工商品拡大 ⇔汎用用途の絞り込み ・ 中国／アセアン市場開拓推進 ・ 自動車／住宅／インフラ／医療用途の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンガポール拠点2系列体制（追加休止：2014/5～） ・ 販売会社再編 ・ 外部委託プロセスの内製化
	フィルム	<ul style="list-style-type: none"> ・ LCD用途 低コストタイプ展開 ・ 工業用離型フィルム拡販 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内生産拠点の集約・効率化 ・ アジア拠点での生産増強と高付加価値化
ヘルスケア	医薬品	<ul style="list-style-type: none"> ・ フェブキソスタット重点拡大（LCM [Life Cycle Management]の推進） ・ 創薬強化、新薬開発ステージ進捗 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業活動の重点化／絞り込みによるコスト低減（Web活用による販促プロモーション等）
	在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPAP・オートセットCS 拡大（循環器領域への拡大） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北米 事業基盤再構築

(4) 2014年度営業利益見通し増減内訳

- 引き続き 事業構造改革 + 徹底的なコストダウンを推進
- 重点戦略事業(高機能繊維・複合材料、ヘルスケア)の拡大に注力
- 薬価改定、アジア・新興国向け販売の低価格化を織り込み



(5) 主要経営指標

	10年度 実績	11年度 実績	12年度 実績	13年度 実績	14年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	6.1%	4.5%	1.6%	2.4%	3.2%
ROE：当期利益／自己資本*1	9.1%	4.2%	-10.3%	3.0%	3.6%
売上高営業利益率	6.0%	4.0%	1.7%	2.3%	3.2%
D/Eレシオ*2	0.94	0.89	1.00	1.00	1.0
自己資本比率	37.3%	38.3%	35.6%	36.7%	35%
1株当たり当期純利益(円)	25.6	12.2	-29.6	8.5	10.2
1株当たり配当金(円)	5.0	6.0	4.0	4.0	4.0
総資産(億円)	7,615	7,621	7,624	7,684	8,000
有利子負債(億円)	2,674	2,610	2,708	2,815	2,900
EBITDA(億円)*3	1,050	863	592	637	700

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

新執行体制下での経営方針

1. ビジョン・方針
2. 事業構造改革
3. 成長戦略
4. 将来イメージ

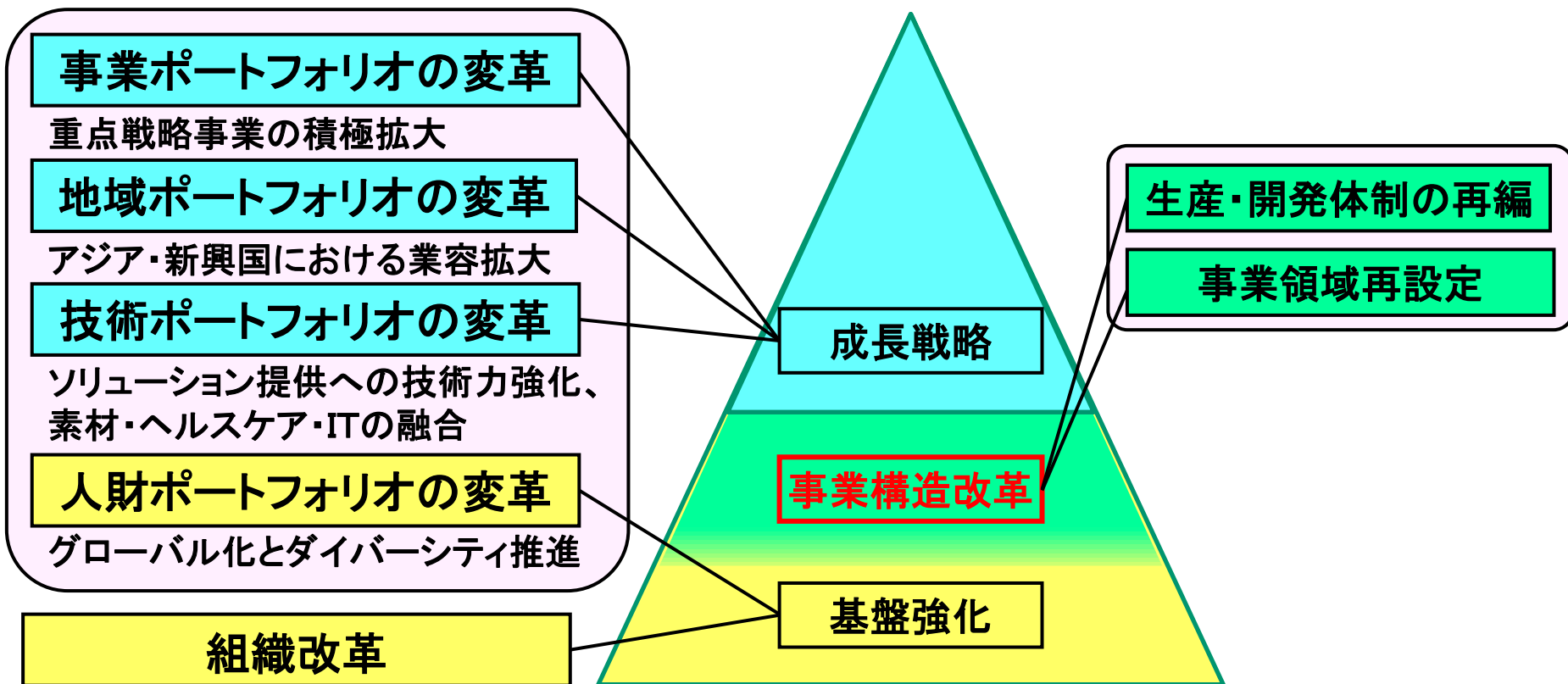
1. ビジョン・方針

■ 長期ビジョン・基本方針は維持

－ ソリューション提供型ビジネスモデルへの進化 －

■ 「構造改革」と「成長戦略」の両軸による成長

－ 更なる「集中と選択(資源の重点配分)」の徹底 －



2. 事業構造改革

■ 2012～2013年のマクロ環境

新興国の景気減速が長期化、先進国も回復ペースは緩やか

■ 帝人グループの業績低迷の主要因

素材事業における

- コスト競争力の脆弱性
- 特定の用途・顧客・地域への偏重
- 新規用途／市場開拓、新規商品開発の不足
- 「ソリューション提供型ビジネス」への変革の遅れ



素材事業における収益力の毀損

■ 短中期の重点課題

既存事業の構造改革とコストダウンによる収益基盤の再構築

■ 基本方針

当社が手掛ける事業領域・分野を

『**市場の成長性**』『**技術優位性**』『**採算性**』『**ビジネスモデル**』

の切り口から再度絞り込み、それに見合う

適正な『**生産規模**』『**生産立地**』『**設備構成**』を目指す。

■ 基本施策

1) 国内外生産・研究開発拠点の統廃合

2) 戦略的アライアンス、OEM、M&Aの推進

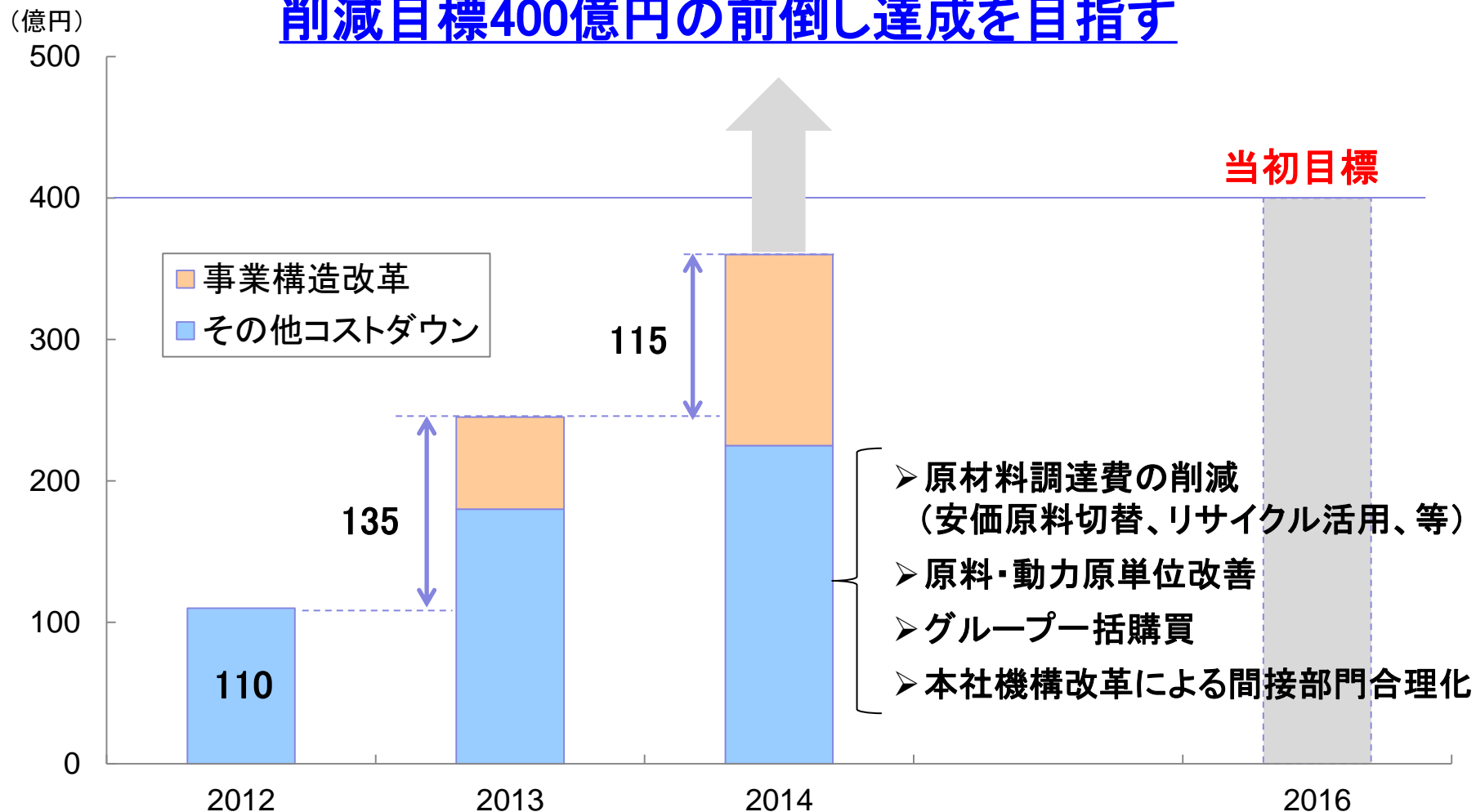
3) 汎用素材ビジネスの最適立地・適正規模化と、成長分野への資源集中

4) スタッフ部門効率化と全社コストダウン活動の継続推進

2. 事業構造改革

■ 収益改善効果（構造改革以外のコストダウン効果含む）

削減目標400億円の前倒し達成を目指す



■ 目指す姿

社会から必要とされる価値を提供し続ける企業体への進化

■ 基本方針

- 高機能素材、ヘルスケア、ITを中心とした高収益事業を拡大する。
- コア・コンピタンスの複合化による新たなビジネスモデルの創出にグループの総合力を結集して取り組む。

■ 基本施策

1) 着手済み重要プロジェクトの着実な推進(熱可塑性CFRP、ヘルスケア等)

2) 全社一体での素材・ヘルスケア・ITの融合による新たな事業領域の創出

3) 素材事業と製品事業のコラボによる川中・川下事業の拡大

4) 戦略的アライアンス、OEM、M&Aの推進

5) 技術・研究開発体制の再編・強化

■ 事業ドメイン

社会に提供する価値

高機能素材

- ◆ 小型化、軽量化、強靱化、意匠性を実現する多彩な高機能素材
- ◆ 素材の複合化技術

省エネ・省資源、安全・防災
クリーンエネルギー

ヘルスケア

- ◆ 医薬・在宅医療のシナジー
- ◆ 在宅医療の全国ネットワーク

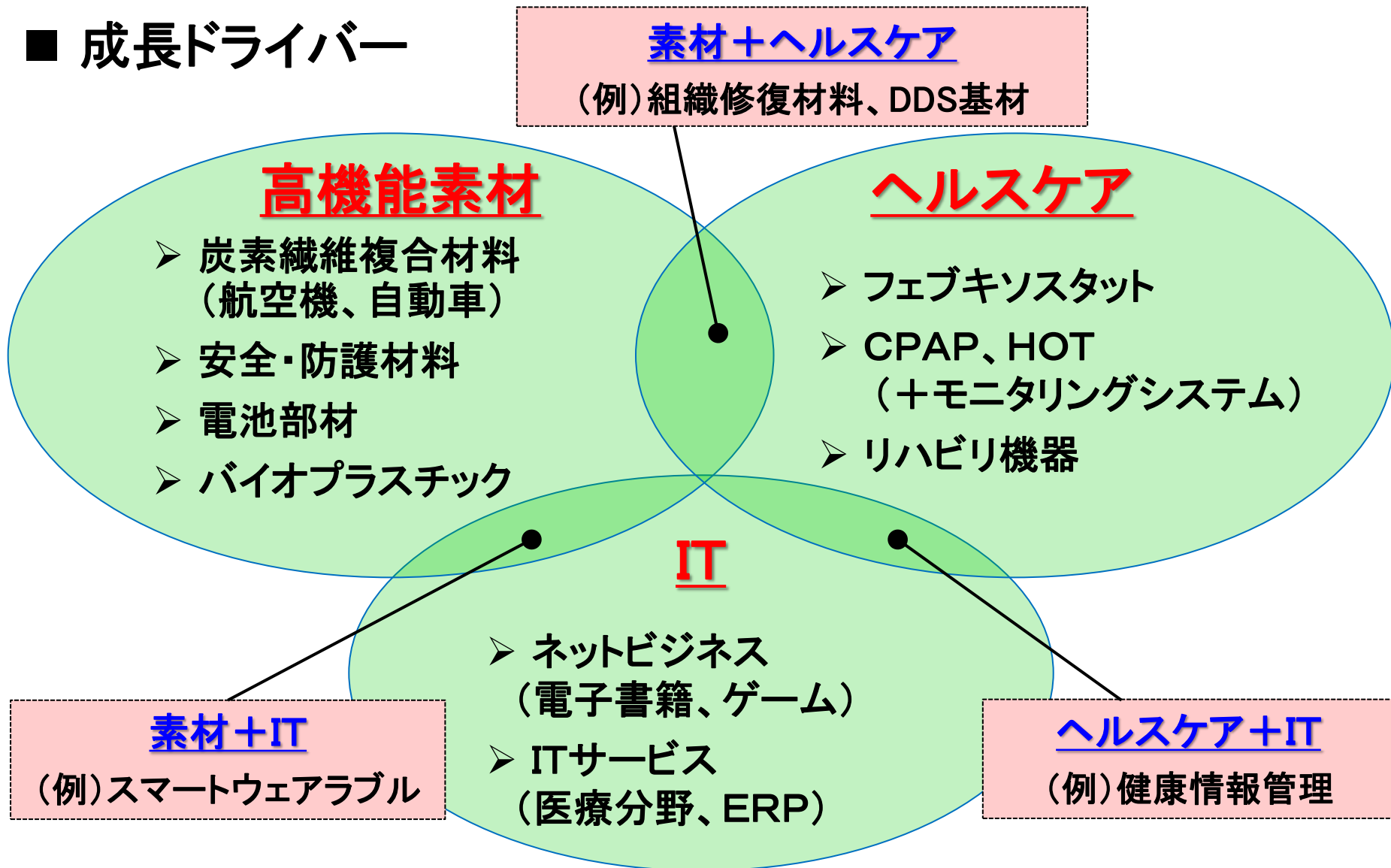
安心と安全、快適性
⇒患者様のQOL向上

IT

- ◆ BtoB、BtoC 二軸での事業展開
- ◆ 顧客基盤(数百万人の個人ユーザー)

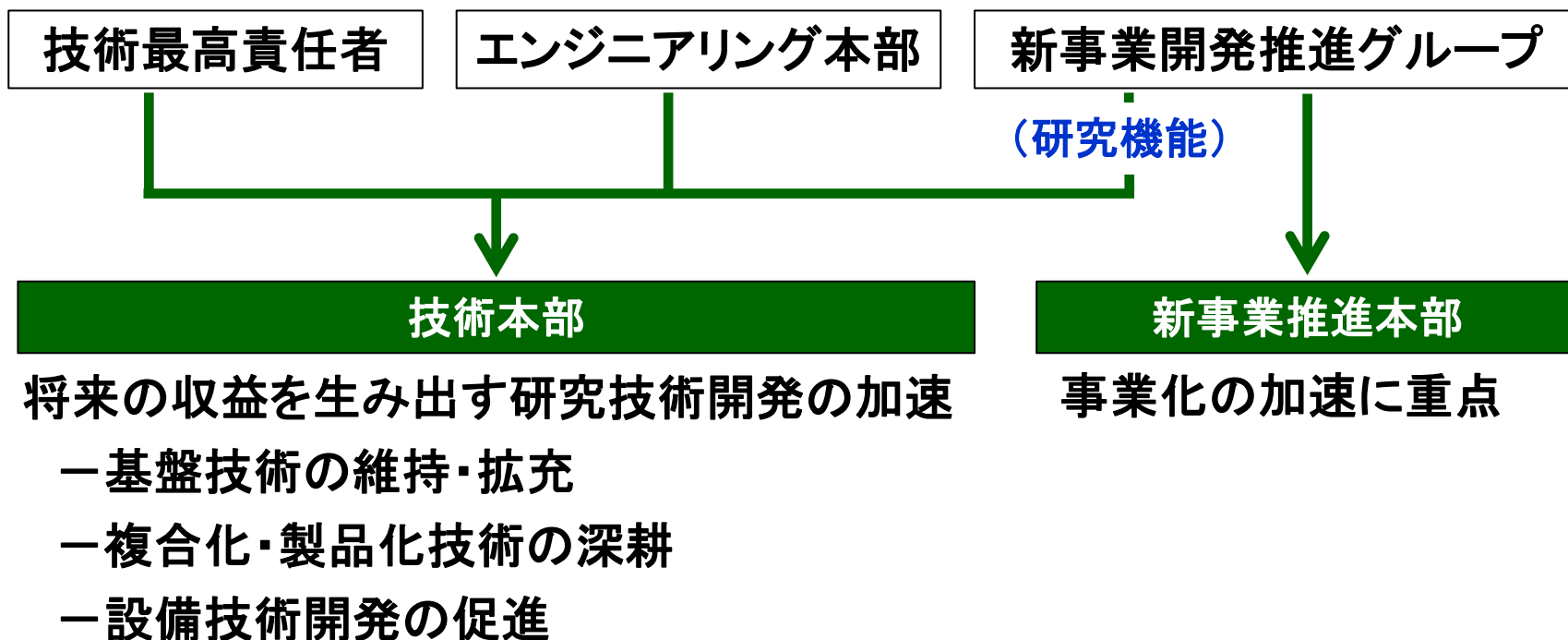
サービスの高度化
情報収集とタイムリーな活用

■ 成長ドライバー



■ 技術・研究開発体制の再編・強化

- 技術本部／新事業推進本部 の組織再編 (2014年4月～)



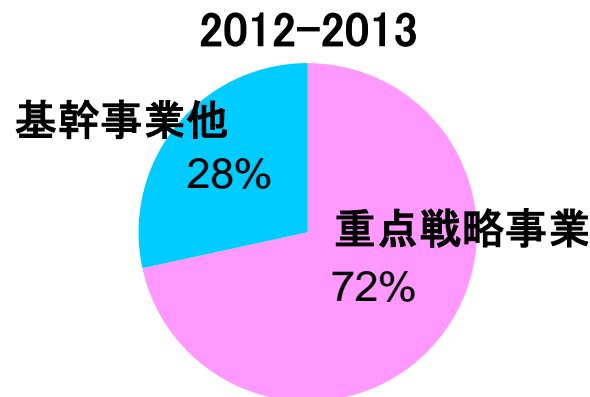
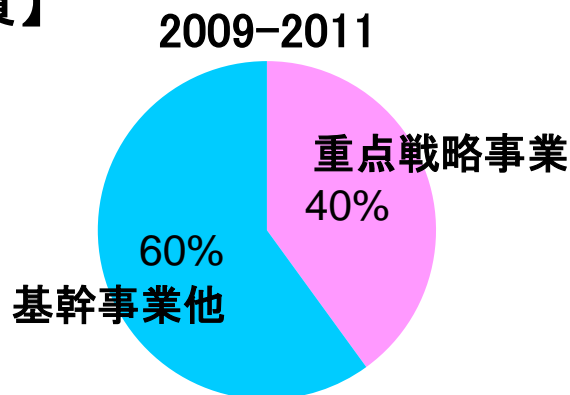
- 素材売りからソリューション提供型ビジネスへ
- 素材・ヘルスケア・ITの融合による新事業領域の創出

3. 成長戦略

■ 資源投入イメージ

重点戦略事業(高機能繊維・複合材料、ヘルスケア)の拡大に向けた経営資源の重点配分を実行中

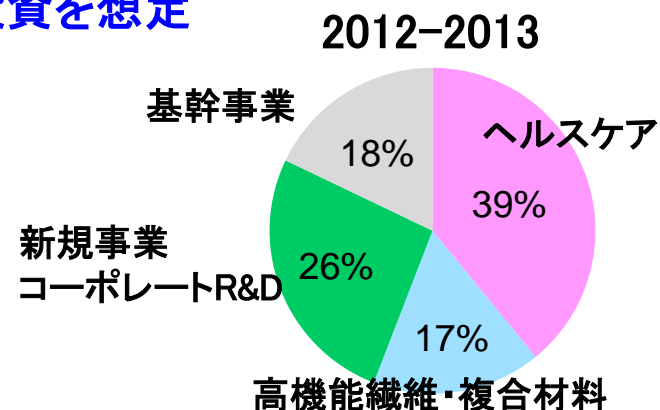
【設備投資】



300億円／年前後の維持・更新投資に加え、
今後3年間の累計で1,000～2,000億円程度の成長投資を想定

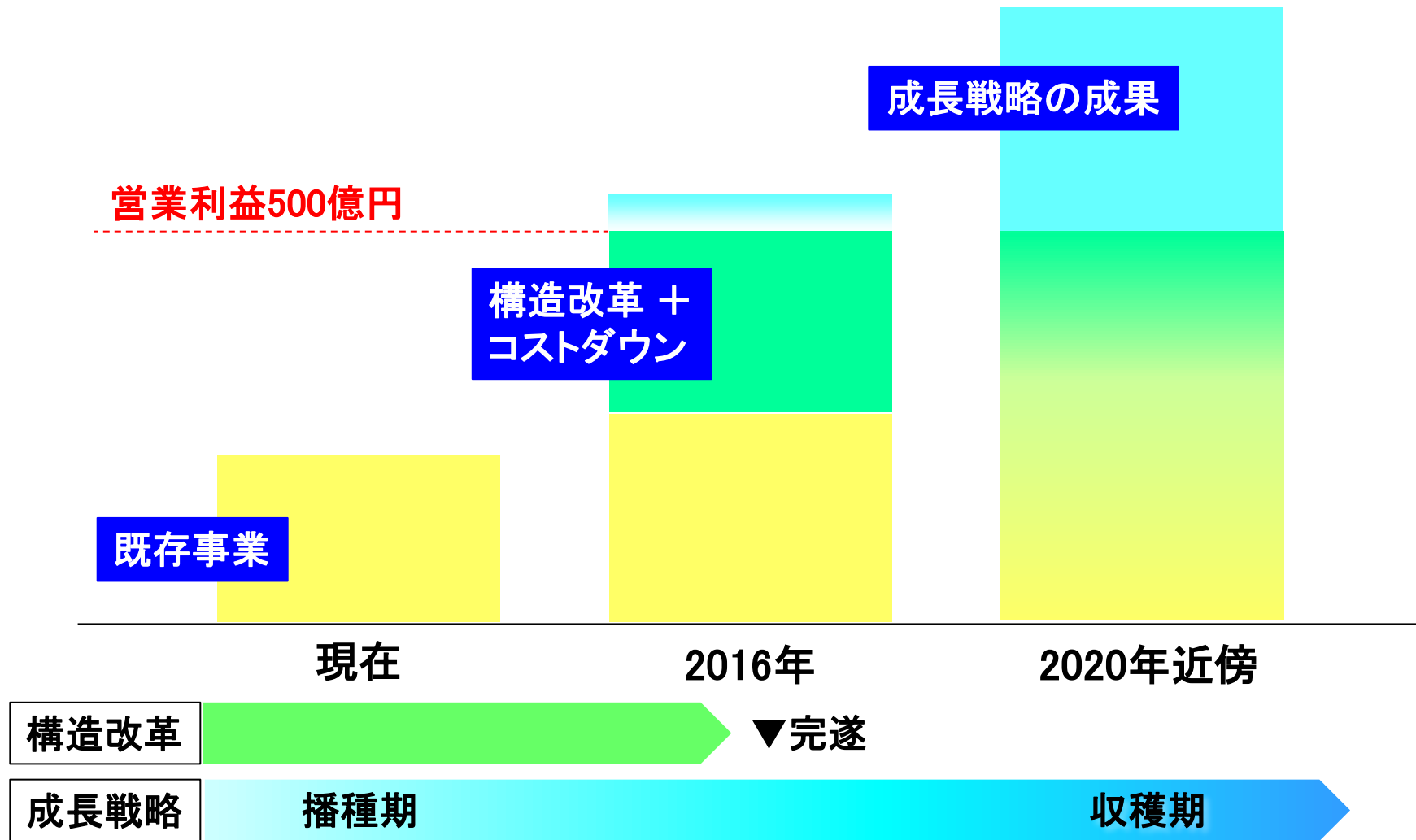
【開発研究費】

重点戦略事業、新規事業を中心に、
売上高の4～5%の投入を今後も継続



4. 将来イメージ

■ 収益力向上イメージ



見直しに関する注意事項と事業等のリスク

見直しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかもの

ヘルスケア事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2014年5月9日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

(億円)		12年度実績					13年度実績				
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
売上高	高機能繊維・複合材料	261	266	252	332	1,112	282	302	304	348	1,236
	電子材料・化成品	437	447	430	441	1,755	443	470	449	432	1,794
	ヘルスケア	312	331	357	383	1,383	315	333	366	370	1,384
	製品	549	608	609	607	2,372	571	638	660	673	2,542
	計	1,560	1,652	1,648	1,762	6,622	1,611	1,744	1,779	1,823	6,956
	その他	184	187	200	264	835	224	239	186	239	888
	合計	1,743	1,839	1,848	2,026	7,457	1,835	1,983	1,964	2,062	7,844
営業利益	高機能繊維・複合材料	-3	6	-20	-30	-47	2	22	9	24	57
	電子材料・化成品	16	-1	-4	-30	-19	-2	-24	-18	-27	-72
	ヘルスケア	38	55	71	84	248	46	48	80	72	245
	製品	7	14	15	10	47	6	18	11	17	52
	計	58	74	62	35	229	52	63	82	87	282
	その他	4	2	8	29	42	-0	-3	-5	26	17
	消去又は全社	-32	-32	-43	-41	-148	-33	-26	-31	-29	-119
合計	30	44	28	22	124	18	34	45	84	181	

◆ 連結貸借対照表

(億円)	12年 6月末	12年 9月末	12年 12月末	13年 3月末	13年 6月末	13年 9月末	13年 12月末	14年 3月末
資産 合計	7,397	7,318	7,800	7,624	7,838	7,668	7,910	7,684
流動資産	3,521	3,507	3,734	3,723	3,725	3,662	3,856	3,649
固定資産	3,877	3,810	4,066	3,901	4,114	4,006	4,054	4,035
負債・純資産 合計	7,397	7,318	7,800	7,624	7,838	7,668	7,910	7,684
負債	4,402	4,330	4,654	4,703	4,889	4,713	4,893	4,683
(内 有利子負債)	2,547	2,523	2,749	2,708	2,877	2,923	2,969	2,815
純資産	2,995	2,988	3,145	2,921	2,949	2,955	3,017	3,001

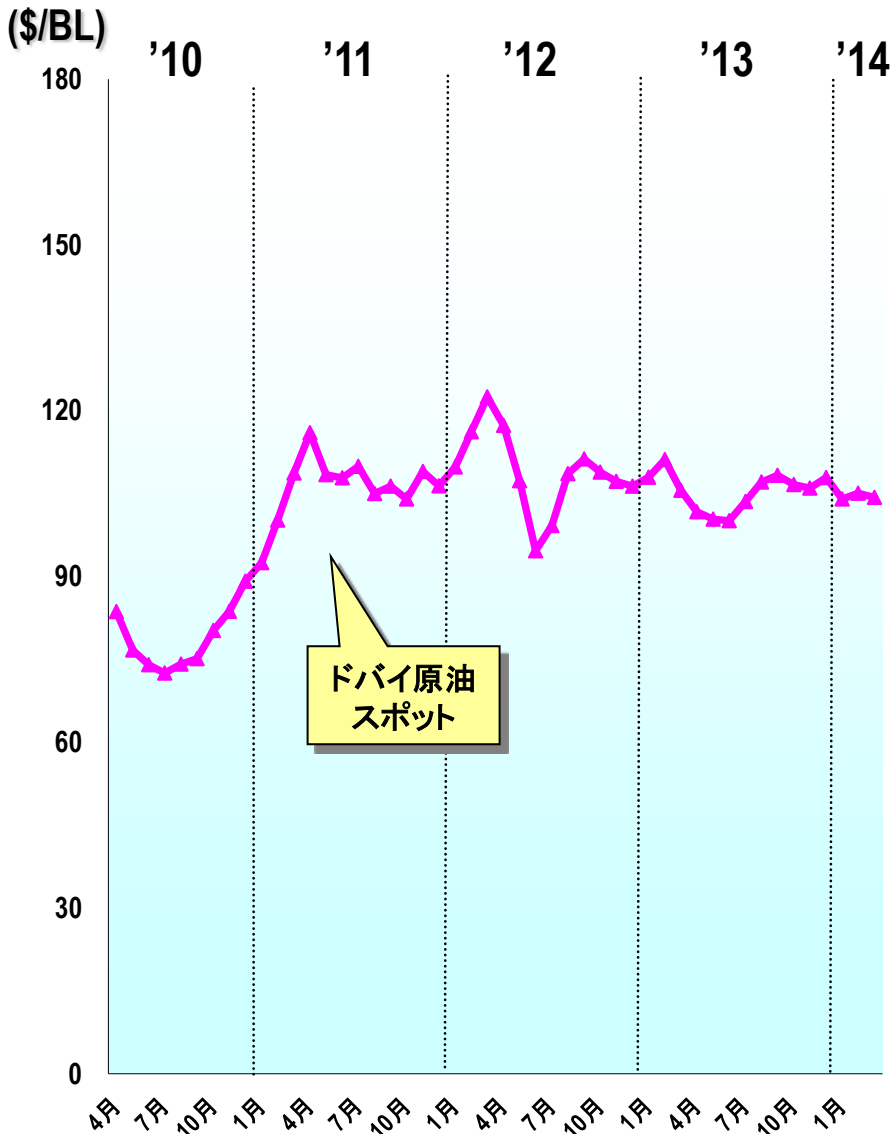
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	12年度				13年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,743	1,839	1,848	2,026	1,835	1,983	1,964	2,062
売上原価	1,275	1,357	1,382	1,538	1,379	1,513	1,482	1,527
売上総利益	468	483	466	488	456	470	483	535
販管費	439	439	438	466	438	436	438	451
営業利益	30	44	28	22	18	34	45	84
営業外損益	-8	-17	8	-9	-3	-8	41	-12
（内 金融収支）	-3	-7	-5	-5	-3	-7	-4	-5
（内 持分法投資損益）	4	1	1	-0	-1	4	34	5
経常利益	22	27	36	13	16	25	86	72
特別損益	-25	16	-8	-303	-3	53	-66	-38
税前利益	-3	43	28	-290	13	78	20	34
法人税等	16	30	9	6	11	39	31	-1
少数株主損益	-2	2	5	4	0	-4	-16	2
四半期純利益	-16	10	15	-300	2	43	4	33

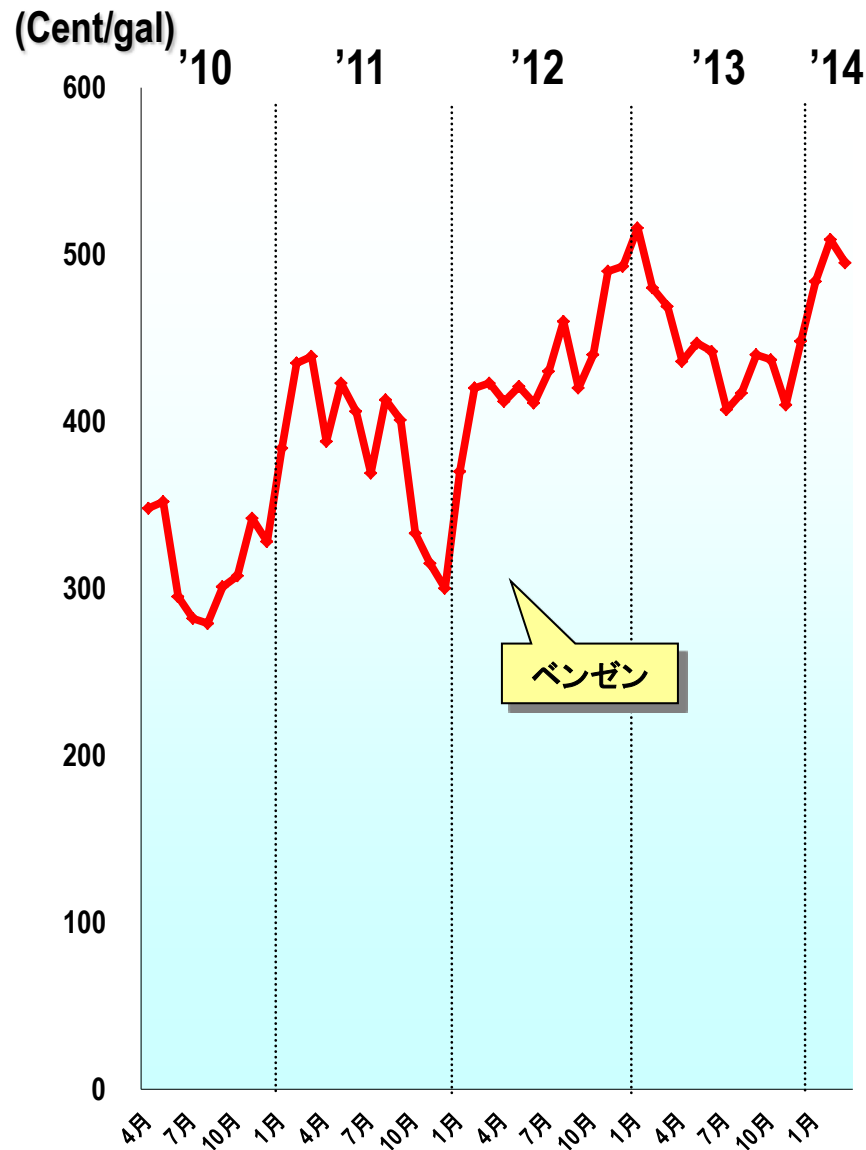
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ ドバイ原油価格推移



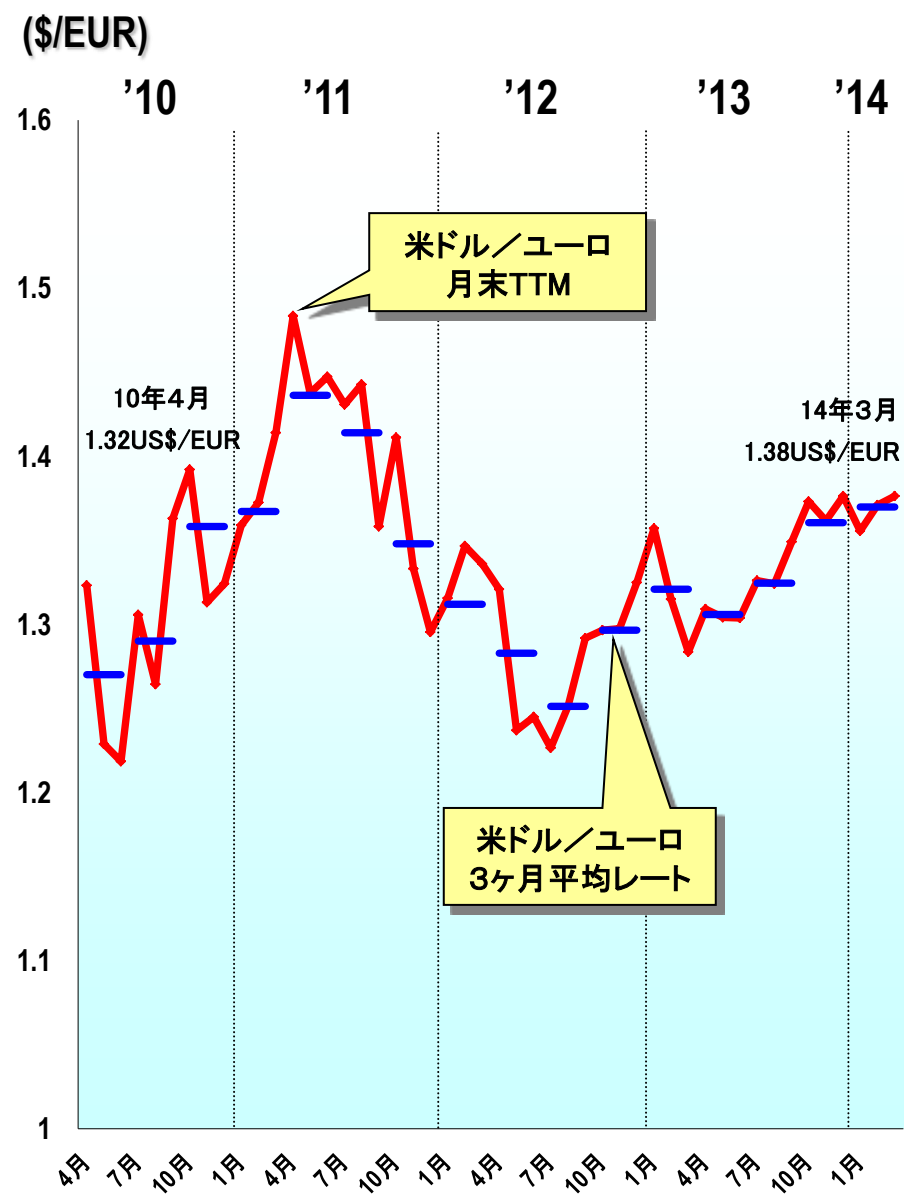
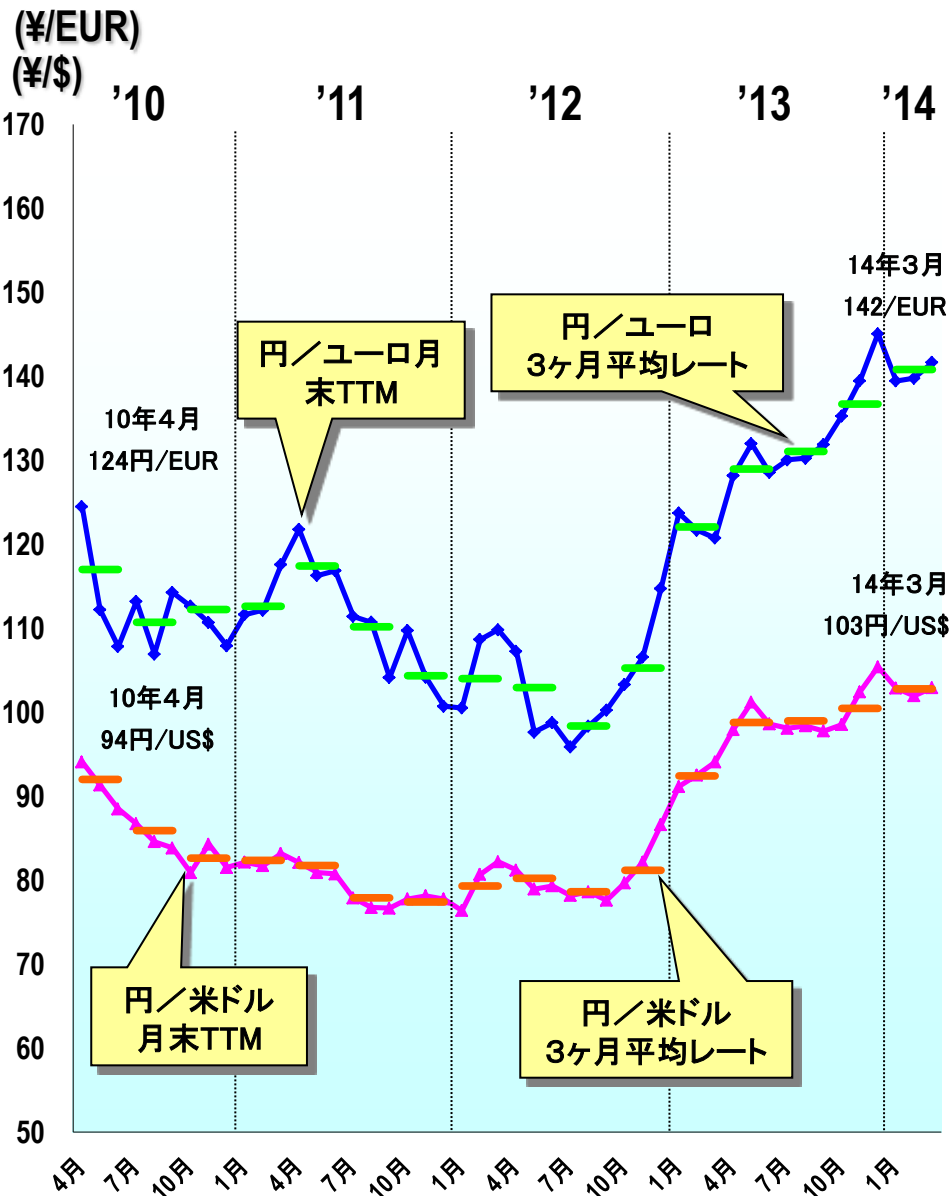
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ ベンゼン価格推移



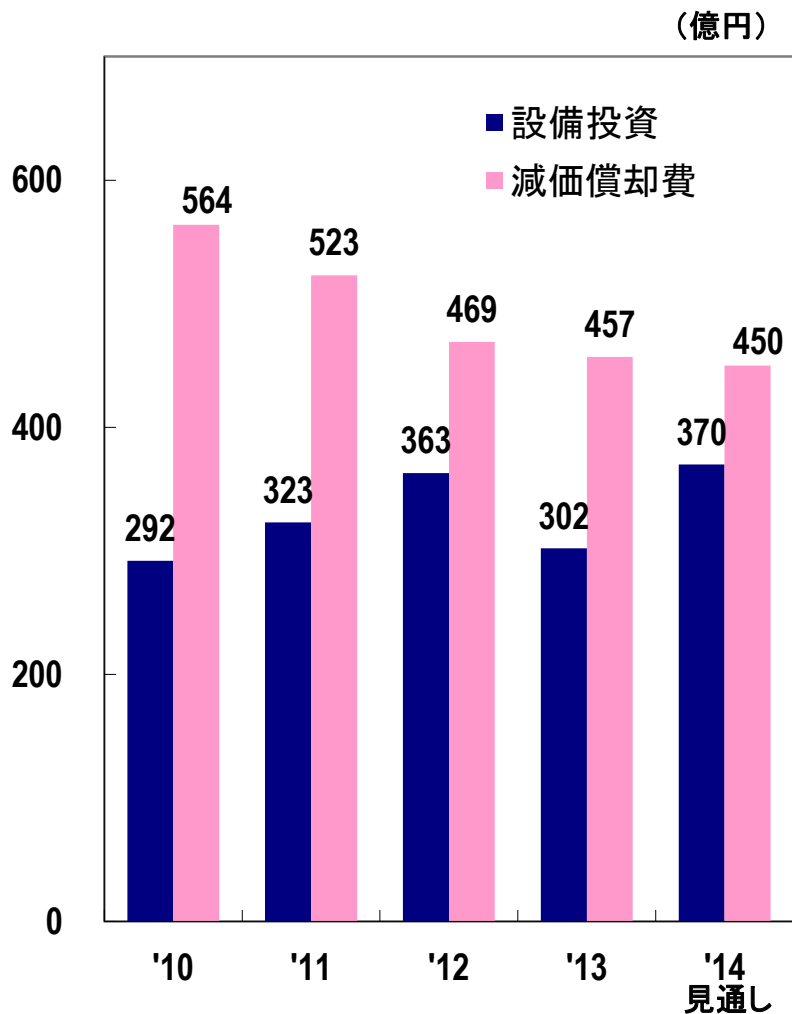
【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆ 円／米ドル、円／ユーロ為替レート推移

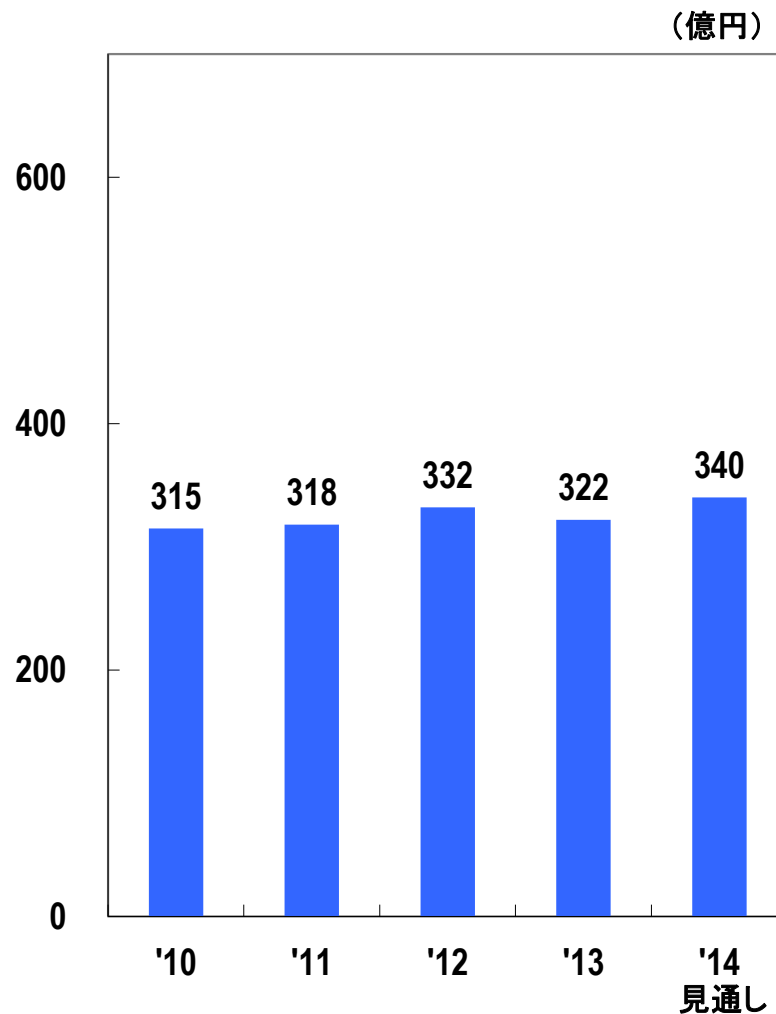


◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費



◆主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	12年度					13年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
ボナロン®*	骨粗鬆症治療剤	33	40	43	42	159	32	37	41	32	142
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	18	20	21	20	79	15	17	19	14	66
骨粗鬆症治療剤計		51	60	65	62	238	47	54	60	47	208
ベニロン®	重症感染症治療剤	24	24	27	25	99	22	23	29	20	94
ムコソルバン®	去痰剤	21	19	26	24	90	17	18	24	19	79
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	7	12	17	19	55	19	25	34	37	114
ラキソベロン®	緩下剤	10	10	11	10	40	8	9	10	8	36
トライコア®	高脂血症治療剤	4	4	5	5	18	4	4	5	4	17
ボンアルファ®	角化症治療剤	4	3	4	3	14	3	3	3	3	13
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	4	4	13	3	3	4	3	13
サイビスクディスポ®	変形性膝関節症の疼痛緩和剤	4	3	3	2	12	2	2	2	2	8
スピロペント®	気管支拡張剤	2	2	2	2	9	2	2	2	2	8

* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2014年3月末現在)

* 承認／新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認／新規上市
骨・関節 領域		ITM-058 KTP-001			GTH-42J [ボナロン®]
呼吸器 領域	PTR-36*1			NA872ET*6 [ムコソルバン]	
代謝・ 循環器領域	TMG-123	ITM-014N*2 [ソマチュリン®] (適応追加: 神経内 分泌腫瘍)	TMX-67TLS*3 [フェブリク] (適応追加: 腫瘍崩壊症候群) TMX-67 [フェブキソスタット] (中国)		
その他			GGs-ON, -MPA, -CIDP [ベニロン] (適応追加①: 視神経炎<ON>) (適応追加②: 顕微鏡的多発 血管炎<MPA>)*4 (適応追加③: 慢性炎症性脱 髓性多発根神経炎<CIDP>)*5		

*1 PTR-36は2013年6月にPhase I 段階へ移行、*2 ソマチュリン®の神経内分泌腫瘍への適応拡大として2013年10月にITM-014Nの臨床開発に着手、*3 フェブリクの腫瘍崩壊症候群への適応拡大として2013年10月にTMX-67TLSの臨床開発に着手、*4 ベニロンの顕微鏡的多発血管炎への適応拡大として開発中のGGs-MPAは2013年11月にPhase III段階へ移行、*5 ベニロンの慢性炎症性脱髓性多発根神経炎への適応拡大として2013年12月にGGs-CIDPの臨床開発に着手、*6 ムコソルバンの剤形追加として開発中のNA872ETは2014年2月に承認申請を実施。

◆ 新規上市医薬品 (2014年3月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ボナロン® 経口ゼリー35mg (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)のゼリー剤。 骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー製剤。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入:米メルク社 2013年3月12日に国内販売開始

ボナロン® / Bonalon® は Merck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆ 新規開発医薬品 (2014年3月末現在)

【承認申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NA872ET (アムブロキシソール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アムブロキシソール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入:独ベーリンガー ・インゲルハイム社 2014年2月承認申請

【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GG5-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
GG5-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
GG5-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
TMX-67TLS (フェブキソスタット)	腫瘍崩壊症候群	本剤の強力な尿酸生成抑制作用により、1日1回の投与で、悪性腫瘍に対する化学療法に伴う高尿酸血症の発症を抑制することが期待される。	錠剤	自社開発品 (適応追加)
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかつた患者へも使用が可能であり、中国における高尿酸血症・痛風治療の新たな選択肢として、高尿酸血症・痛風患者のQOL(Quality of Life)向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発: アステラス中国 (中国)

【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	神経内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導(直接的作用)や細胞栄養因子の分泌制御(間接的作用)を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社 (適応追加)
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素(マトリックスメタロプロテアーゼ)と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者: 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発: 化血研

【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序(肝優位型GK活性化作用)による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性(1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等)が期待される。	錠剤	
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序(CRTh2拮抗作用)によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果(軽症患者)や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果(軽症~重症の患者)が期待される。	錠剤	導入:英プルマジェン・セラピューティクス(アズマ)リミテッド社

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。